

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月22日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2772401010
法人名	社会福祉法人 聖徳園
事業所名	グループホーム敬愛
所在地	枚方市香里ヶ丘8丁目1番地 (電話) 072-860-3775

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 6月 29日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 8月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7人
職員数	6人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算	6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円 (一室のみ54,000円)	その他の経費(月額)	22,000円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 6月 1日現在)

利用者人数	7名	男性 0名	女性 7名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.4歳	最低 81歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘有恵会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年地域で活動されてきた社会福祉法人が「認知症高齢者グループホーム」のモデル事業として大阪府内で三番目に開設したホームであり、今年の夏には10年目に入ります。住宅街の一角にホームとして独立した平屋に、7名が生活する家庭的なホームです。全居室は広々とした中庭に面しており、ガラス戸を開け直接芝生のある中庭に出たり、居室内で自然の風を満喫したりすることができます。色とりどりの草花や野菜への水やりや収穫が利用者の楽しみであり、中庭からは毎日小学生の登下校時の見守り隊に協力し、交流を図っています。地域の行事への参加、買い物や散歩の途中での挨拶など地域との交流の機会を持ち、日々絆を深めています。管理者・職員が常にサービスの質の向上を目指し、ISO9001(国際標準化機構)の認証更新を受け日々努力し、工夫を重ねています。利用者が安全で心が元気になる、その人らしく、楽しく過ごすことができるよう支援しています。今年目標の一つである作品の展示についてはボランティアや家族の協力を得ながら、それぞれ得意とする手芸等に励んでいます。作品の成果は達成感を評価し目標に繋がります。利用者は一つの家族のように互いに助け合い支えられ、楽しみながらゆったりとした時間を過ごしています。利用者は遠出の外出をしてもホームに帰るとほっとした寛ぎの表情を浮かべ、また職員はホームが我が家になっていることにケアの喜びを感じています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価では特に要改善項目はありませんでした。母体法人の経営方針に「常に業務の改善により前進します」と示されており、常に業務改善の姿勢で運営しています。外部評価とは別にISO9001の認証を取得し、更新審査も受け、更なるサービス提供への改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員共に評価の意義を理解しています。外部評価の意義を理解した上で、職員全員で自己評価票の作成に取り組みました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員・コミュニティ福祉委員副会長・地域の民生委員・利用者家族の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。①介護報酬改定の報告 ②地域交流行事・研修報告 ③職員交代の報告 ④21年度事業所品質目標 ⑤地域からの報告 ⑥その他等を話し合い、会議の後も勉強会を実施しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時・電話連絡の機会に日々の様子を伝え、意見や要望等意向を確認しています。毎月定期的に「敬愛えがお通信」を作成し、最新の写真と共に外出状況・健康状態・買い物など個別の生活状況を送付し報告しています。運営推進会議へは、多くの家族の出席により意見をいただく機会を設けています。会議の後、「在宅での終末医療」についての勉強会を実施し、家族の不安解消に努めています。ホーム内に「ご意見箱」や苦情相談窓口を掲示しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	21年度のホームの目標の一つとして「地域住民と利用者との交流を深め交流の機会を確保する」を挙げており、「小学生の登下校時の安全見守り」活動への参加や「とんど焼き」「夏まつり」「文化祭」など小学校で催される地域の行事等に参加し、交流を図っています。また、母体法人の交流センターへ来訪する保育園児との交流や「こもれび喫茶」では地域住民との交流もあります。ボランティアの訪問により、手芸作品の支援を受けています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念に添い、グループホームの方針としては、『人としての尊厳・人格を尊重し、家族や地域住民との交流のもとで、社会的な関係を保ちながら、その人らしく楽しく、心が元気になる、安全で行き届いたサービスを提供します。』として支援しています。年度ごとに具体的な目標をかかげ、サービスの品質管理に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や方針をホーム内に掲示しています。職員は毎朝業務引継ぎ時に唱和しています。 21年度の目標として①地域住民と利用者との交流を深め、交流の機会を確保します。 ②利用者に生きがいを持って暮らしていただくために、作品展示を実施する。を定めています。目標を達成するための実施項目は各職員からの提案を受けて実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	21年度のホームの目標の一つとして「地域住民と利用者との交流を深め交流の機会を確保する」を挙げており、一昨年より引き続き見守り隊に協力し、小学生の登下校時の安全見守り活動への参加や、「とんど焼き」「夏まつり」「文化祭」など小学校で催される地域の行事等に参加し交流を図っています。また、母体法人の交流センターに来る保育園児との交流や「こもれび喫茶」では地域住民との交流もあります。ボランティアの訪問を受けて手芸の制作活動への支援を受けています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員共に評価の意義を理解しています。自己評価は職員全員で行っています。昨年の外部評価では特に要改善項目はありませんでしたが、母体法人の経営方針に「常に業務の改善により前進します」と示されており、常に業務改善の姿勢で運営しています。外部評価とは別に ISO9001 (国際標準化機構) の認証を取得し、更新審査を受け、更なるサービス提供への改善に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員・地域の民生委員・利用者家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。3月にも多くの利用者家族が参加し、「介護報酬改定の報告」「職員交代の報告」「地域交流行事・研修報告」「21年度事業所品質目標」「地域からの報告」「その他」等を話し合い、勉強会も実施しています。会議に出席した家族からの要望・意見があれば伺い、サービス向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議議事録や外部評価の報告等については市に届けており、市へ出向く場合は市の担当者と相談、情報交換しています。市や地域包括支援センターの要請により「認知症サポーター養成講座」を実施しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には日々の生活の様子を伝えています。また、毎月定期的に「敬愛えがお通信」を作成し、個別の生活状況を送付しています。内容は最新の写真も載せ、日々の生活活動・買い物代行内容・外出支援・行事参加・金銭出納・健康状態（体重の増減等）を報告しています。金銭管理報告書も送付し、個人金銭出納帳についても了承署名、押印があります。職員の異動については来訪時に紹介しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時・電話連絡の機会に家族の意見や要望等意向を確認しています。運営推進会議へは多くの家族の出席により意見をいただく機会を設けています。苦情・相談は担当者と苦情解決の流れを玄関に掲示しています。「ご意見箱」も設置していますが、具体的な苦情はありません。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の外部評価受審以降、職員の交代は2回ありました。職員の退職で交替した職員は1名のみで他5名の職員は変わっていません。利用者への影響を最小限にするため引継ぎの期間を配慮しています。玄関には写真入りで職員名を掲示しています。運営推進会議時にも職員の交代は報告しています。居室担当職員の交代は「えがお通信」でも報告します。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を段階に応じて育成する研修計画を毎年立て、計画的に研修を受ける機会を確保しています。職員は交代で外部研修受講の機会も得ています。外部研修で学んだことを報告し、職員全員で共有できるよう伝達研修を実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は大阪認知症高齢者グループホーム協議会の役員を務めており、管理者や職員が地域の同業者連絡会や研修会に参加し情報交換などの交流を図っています。また、「認知症サポーター養成講座」の実施や当ホームで「認知症実践者研修」「認知症施設研修」「学生の実習」等の実習を受け入れています。実習生を受け入れることで、職員も更に学ぶ機会を得てサービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して利用できるよう、入居相談から利用まで、利用者の視点で対応しています。利用開始前に家族と共にホームを訪問していただき、ホームでの生活を短時間でも体験してもらっています。家族とも十分に話し合いながら、利用者本人と家族に合った利用開始の調整を図っています。利用開始からしばらくは家族の協力を得て、ホームに馴染める工夫をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で利用者の得意分野を発揮し役割を持って活動できるよう支援しています。職員は共に食事の下ごしらえ等をしながら、食品の保存法など教えてもらう事を「おばあちゃんの知恵袋」として学んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望や意向を確認し、尊重する姿勢を常に心がけています。時には利用者の郷里の方言をあえて使用し、思いや希望を表出しやすい工夫をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	大阪認知症高齢者グループホーム協議会書式のサービス計画書を活用しています。居室担当者を定めており、計画作成担当者と情報交換を行い、利用者本人・家族の意向をふまえた介護計画を作成しています。作成した介護計画書は職員間で日常的に意見交換や情報交換しながら、介護計画書に連動したケアの実践と記録をしています。利用者や家族には面談の上、介護計画を説明し同意の署名・押印を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度は介護計画の見直しを行っています。個別のケアプラン・ケアチェック表やモニタリング記録を参考に、カンファレンスを月に一回は行い、利用者の体調等の変化があった場合には必要に応じて介護計画の見直しを行っています。介護計画書のうち、見直した部分は網掛けで表示し、全職員が速やかに周知し、ケアの実践に反映できるように配慮しています。申し送りノートでも変更は伝えています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の緊急な場合の受診や家族の都合がつかない場合は通院介助を行っています。また母体法人において、PT（理学療法士）による機能訓練を受ける場合もサポートしています。ホームの中庭から、学童の登下校の見守りを行っています。また認知症実践者研修や学生の実習を受け入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけの医療機関へ継続受診を希望する利用者には、受診を支援しています。また、母体法人の訪問看護師と連携して、週1回定期的に健康管理を行い、家族の希望により法人のPT(理学療法士)による機能訓練を受けられるよう支援する場合があります。協力医療機関との連携を強化し、夜間や急変時の対応については速やかに対応できるように体制整備をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までにホームで看取った事例はありません。基本的に退居の方針について重要事項説明書で説明してします。「看取りの指針」は現在定めておらず、また、本人・家族も重度化や終末期の方針は定まっていない状況です。運営推進会議で利用者の重度化に伴う情報提供として「在宅での終末医療」の勉強会を実施し、家族の不安解消に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの人権を尊重した誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや対応を行っています。職員の研修会では年3回も人権研修を受ける機会があり、職員への周知に努めています。法人の理念・ホームの支援方針にも示されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールは決めていますが、利用者一人ひとりのペースを尊重し、その時の体調や気分に合わせてその人らしい日々の暮らしを支援しています。リビングで、他の利用者や職員の動きを眺めながら、ひとりで過ごされる時間も大切にしてい見守っています。外出については今年も個別の希望を聞いて支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の朝食はホームで調理する他、週2回(昼食は月曜・夕食は金曜)は利用者と相談し、旬の食材を使った献立を考え、買い物・調理を楽しみながら共に行きます。食事のペースがゆっくりになった方にはさりげなく介助しながら、職員は同じ食事を共に味わいます。昼食はゆっくり時間をかけて会話を楽しみながらいただきます。先に食事を終わった方も一緒に同席して利用者同士のサポートもあります。裏の畑や中庭で育てた作物が食卓に上ることもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施しています。バラ風呂など入浴剤や栽培したバラなど生の花びらを浴槽に浮かべ、変わり湯を工夫して、入浴で潤いや癒しを感じられるよう支援しています。入居以前利用していたデイサービスで入浴を拒否されていた方も、ホームでは入浴を楽しめるようになりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでは系列保育園で生まれたウサギを飼っています。毎朝、ウサギのケージの掃除を自分の役割と楽しんでお世話している方がいます。また、ウサギの好物の人参は自身の食事を食べ残して与える方もいます。中庭の草花への水やり、草取り、野菜の収穫などを日課にする方の中には、ホームに入居して初めて栽培の楽しみを体験した方もいます。小学生の登下校時の見守り隊への協力も利用者の大事な役割と楽しみです。それぞれの趣味を活かした作品を展示し、評価表を記録しています。職員は利用者の意向を確認しながら楽しみごとや気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、昼・夕食をホームで調理しない日は母体法人まで副食を職員と共に取りに行きます。小学生の下校の見守り支援を兼ねての近隣への散歩、買い物、母体法人の交流センターでの行事への参加等、短い時間でも回数を多く外出できるよう努力しています。外出支援の大切さを全職員は理解しており、希望する遠出の個別外出も含め、外出目標を立て達成できるよう記録しています。20年度の外出目標は97%の達成率でした。毎月の「えがお通信」に外出記録を報告しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの重要性は職員一同認識しています。各居室から中庭へは直接自由に入り可能で、常に外気に触れることができます。玄関は利用者の安全が確保できる時は開錠しています。また、利用者が外出を希望し落ち着かない様子が見受けられた場合は、できる限り外出に付き添うよう努力しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の手順書を作成し、消防署の協力を得て年2回の消火・避難訓練を利用者と共に実施しています。特に夜間の想定や出火場所を変更し、誘導方法を変えるなど避難できるよう取り組んでいます。職員は常に非常口の鍵を持っています。備蓄品として水・乾パンなどを備えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分・食事摂取量を把握し、個別の生活状況表に記録しています。母体法人の管理栄養士がカロリーの計算等のチェックを行っています。特に水分・食事の摂取量が低下している利用者には、別途作成した摂取表に毎食のメニューを記載し、詳しく記録しています。摂取しやすくように食事形態を工夫して、水分・食事の摂取量を確保できる支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は常に利用者が快適な生活を過ごせるよう配慮した支援を実施しています。リビングには季節に合わせた装飾があり、七夕の笹には利用者の手書きの短冊が吊るされていました。リビングは中庭に面しており、直接出入りができる広いガラス戸からは、明るい採光が確保されています。中庭に植えられた木々やプランターの草花・野菜から季節感を感じることができます。常に外気に触れることが閉塞感のない暮らしを支えています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室から直接芝生の中庭に出られるように設計されています。ガラス戸を開けると居室に外気を取り入れることも可能です。ガラス戸の内側には障子が二重にあり和風の雰囲気を得られます。自宅から使い馴れた机・椅子・たんす・写真・置時計などを好みに合わせて置いています。折り紙の好きな方には家族が折り方の手順を示した見本を掲示するなどの工夫もみられます。本人が快適に過ごせるよう家族の協力も得ています。		